

－教育行政を振り返って－

元教育庁次長 鳴川 智久氏

本日の記念すべき総会にお招きいただき有り難うございます。今日は、「教育行政を振り返って」という題でお話をさせていただきます。校長先生方と違って事務方として都庁の中を歩んできた身でございますので、その点を差し引いてお聞きください。特に、教育庁には 4 年ばかりの短いお付き合いでしたが、今日おいでの先生方との懐かしい思い出が蘇ってきています。

まず、思い出に残ることは財務局総務課長の時のことです。都庁が丸の内から新宿に移転することが主な仕事でした。当時の移転に際しましては、大勢の方々のご協力をいただきました。この仕事が 3 月の人事異動の時期と重なり、約 20 日間、新しい新宿の庁舎での泊り込みも経験致しました。なぜかと申しますと夜遅くなってタクシーで自宅に帰っても僅かしか眠れませんでした。新庁舎の休養室で泊まりました。ただ、ベットにはビニールのカバーがしてありまして、寝て 1, 2 時間しますとビニールが蒸れ、寝返りばかり打っていました。とても安眠できる状況ではありませんでした。

それから水道局の勤めを終え、平成 5 年 7 月に教育庁の福利厚生部長を拝命しました。この度の退職記念誌の発刊に際し、協賛させていただいている「東京都教職員互助会・三楽病院」と「フロラシオン青山」が外郭団体で、行政、校長会、職員団体の三位一体で運営をしているところです。その中で大変だったのは、全国公立学校共済の先生方が利用できる保養所・宿泊所をご利用いただけないとか、会員が結婚されても宿泊所の利用が少ないという問題がありました。全国に約 90 箇所の保養所と宿泊所の利用状況を調べました。赤字の施設、黒字の施設の課題があって、黒字の施設は京都とか大阪等の観光地と一体で運営しているところに集中していました。そこで、全保養所を見て回る計画を立て、土、日を利用して、全部で約 50 箇所を回りました。

それから一年経って、平成 6 年 8 月 1 日に体育部長を拝命いたしました。本日の出席者の中には当時と一緒に仕事をした先生方が多く出席されています。インターハイ、国体、保健給食課、体育課等で指導主事の先生との関わりがでてきたのです。たまたま八月会という高校体育科で管理職を目指す先生方の勉強会の集まりに関係することにもなりました。当時の体育健康指導課長であった梅村氏(現、全国高校体育連盟専務理事)から誘われました。以来、18 年にわたる長いお付き合いをしております。今では多くの管理職が八月会から誕生し

ています。昨年の管理職校長合格者 20 名の内、12 名が体育出身と聞いております。教育では、2 年間、部長職を務めさせていただきましたが、校長先生方と違い東京都庁の中での異動で、区役所を含め、関係する局で 11 回、異動した回数が 23 回、一番短い勤務が 3 ヶ月、一番長いのが 3 年で、平均すると 1 年半で部署が変わりました。教育庁にお世話になったのもその一つになります。体育部長を一年務めた後に東京都の公金の元締めである出納長室の副出納長を拝命、2 年間の中で、当時のコンピューターのシステムに関する西暦 2000 年問題や一日の支払いが 8000 億円支出するといったことに対応してきました。

平成 11 年 8 月（8 月 4 日から）に教育庁次長として再び教育委員会の仕事に携わることになりました。次長になったものの、教育庁の主要なポストの経験はありませんでしたが、当時の八月会など高校の指導主事の先生方との思い出も多く、ここでお話できるキッカケにもなっていて懐かしく感じます。次長の辞令をいただいた直後に江東区で「バタフライナイフ事件」がありました。中学生が深夜バタフライナイフで警察官を刺すという事件でした。すぐに、都中学校校長会に呼ばれて挨拶をしたのが初仕事でした。8 月 4 日から 2 週間の洋上セミナーに参加、私学の高校生も含め、高校生 400 名をつれて北京に行き、初めての海外での仕事を致しました。参加者の中には視覚障害者の高校生もいて、特別支援教育の先生方のご苦労も理解しながら、校長先生方等との絆を深めてまいりました。当時の仕事には、高等学校の統廃合もございました。洋上セミナーから帰った途端、ある都議会議員から「われわれに相談なしに統廃合の件が明るみに出て、けしからん」とのお叱りをいただき、なかなかご理解がいただけなかったという思い出もございます。

2 年目は、都立新宿高校事件が起きました。いわゆる習熟度別加配事件です。当時、処分を含め、大きな問題になりました。それを契機に、平成 12 年 12 月に「都立学校あり方検討委員会」がつくられ、座長をいたしました。この会をまとめ、答申を出すのが次長の仕事でした。職員会議のあり方、学校支援のあり方、主任制度、人事制度等がまとめられ、このことを実行に移す学校を側面から支援してまいりました。

さて、現役を退き 12 年が経過し、現在は豊島区の監査委員をしたり、全国定時制通信制高等学校軟式野球連盟会長をしております。先ほど多田会長が教育界を取り巻く現状は大変多忙で厳しいと申しておりましたが、現役の校長先生方には、がんばっていただきたいと思っております。

話は変わりますが、3 年前に東京オリンピック招致をめざし、コペンハーゲンに行った思い出があり、涙をのんで帰国しました。同じ飛行機の中で当時の石原知事が涙を流していたのをはじめて見ました。今年の 9 月 7 日には、ヴェノスアイレスでオリンピック招致の最終審査があります。私としては、最後のご

奉公をしたいと思っっているところです。

さて、校長職は、一ヶ月に1日か2日ぐらいしか休みが取れない実態のようですが、ここにお集まりの先生方は教師として、経営者として高い志をもって勤めを全うしてきた方々ばかりです。私がお世話になっていた当時の教育関係者は、児童・生徒150万人のため教職員65000人が毎日働いていおられました。そういう意味では、良いことより問題のあることがマスコミに大きく取上げられて、教育庁は、絶えず注目を浴びるといふ都の他局とは違った守備範囲の広いところがありました。だからこそ、子どもを預かるという教育者は、高い志をもった先生方が必要だと思います。しかも、先生方には教え子というかけがえのない財産があり、事務方の私にはありません。私は、縁あって教育庁でお付き合いいただいた先生方や体育の集まりといった接点があつて、今でもお会いすることを楽しみにしているところです。

今日は、私の経験した4年間の教育行政を振り返ってお話をさせていただきました。先生方のご健勝と東京都公立高等学校退職校長会のますますのご発展をご祈念いたしております。ご静聴有り難うございました。